

「おかね」に込められた思い

熊本県・熊本大学教育学部附属中学校 2年 廣川 拓飛

ほんの少しのお金でも、その「おかね」に思いを込めればその思いは届く。そんなことを実感した出来事があった。

僕は塾に通っていて、コンビニで夕食を買うことがよくある。その出来事は、今年の6月下旬、いつも通り夕食を買いにコンビニへ行ったときのことだった。僕が商品を手に取りレジに並んでいると、前に並んでいた一人の男性が支払いをしていた。

「3円のおつりになります。」

店員さんがそう言って男性におつりを渡すと、男性はその3円を自分の財布に入れることなく、そのまま笑顔でレジ台の上に置いてあった箱の中に入れた。すると、店員さんも満面の笑みで、

「ありがとうございます。」

と言った。僕は驚いてその箱を見ると、「平成30年大阪府北部地震災害義援金のお願い」と書かれてあった。一度も募金をしたことがなかった僕は、もっと驚いてしまった。自分のお金を人のために使うのは、とても勇気がいることだと思っていたからだ。一瞬の出来事だったこともあり、僕は募金のことをあまり気にとめてなかった。そして僕の支払いの時になった。

「3円のおつりです。」

あの男性と同じようにそう言われた僕は、少しはっとした。しかし、募金をする勇気がなかったし、何よりも「たったの3円。これで自分が募金しても何も変わらないだろう。」という気持ちが強くなってしまい、結局その3円を財布の中に入れてしまった。それからしばらく、なんとなくもやもやした気分と、あの男性の笑顔がやけに胸いっぱい広がっていった。その後、あの時なぜ僕まで心が温かくなっていったのだろうということや、自分も募金すれば良かったということはずっと考えていた。

それから2週間後、そんな疑問を解決する出来事があった。学校で募金するチャンスがあったのだ。それは7月の九州豪雨災害の募金だった。あの男性のことを思い出した僕は、興味本位でその募金の内容を見てみた。それを讀んだ僕は、目が釘づけになった。最後の一文にこう書かれていたのだ。

「皆様の温かいご支援をよろしく願いいたします。」

この温かいご支援という言葉が印象的であった。なぜあの時、店員さんは満面の笑みになったのか、なぜ僕まで温かい気持ちになったのか分かった気がした。あの時、あの男性の笑顔の中には、「本当に早く復興してほしい。困っている人を助きたい。」という強い思いがあったのだと思う。そしてその思いをたったの3円に込めて募金箱に入れたのだ。その思いは店員さんにも僕にも届き、嬉しく温かい気持ちでいっぱいになったのだと思った。そのたったの3円は集められ、億単位の大金となって被災地へ飛んで行く。そして被災地の人々は、その「おかね」で勇気づけられ、また助けられる。それは、その「おかね」から、様々な思いを感じるからだろう。しかし、もしそれぞれの、ほんの少しのお金が募金されなかったら大金にはならない。このようなしくみで、いくら遠く離れた人へでも、「おかね」を通じて思いは届くのだと思った。それは、自分の経験からも言える。今から約2年前の熊本地震で、僕たちは大きな被害を受け、元気を失っていた。そんな時、元気をくれたのもやはり「おかね」だった。計500億円もの義援金が送られてきたというニュースを聞くと、どれほど気持ちが楽になったことだろう。「おかね」を通じて全国の計り知れない人々からの「頑張れ」という思いが伝わってきたことを覚えている。その時の気持ちは、あの男性の時の気持ちと同じだったような気がする。人々の強い思いが届き、温かい気持ちになったのだ。このようなことを学んだ僕は、この次の日、思い切って1,000円を募金した。とてもすがすがしい気分だった。

自分の大切なお金を人や社会のために使うのはとても勇気がいることだと思う。しかし、そこで一人ひとりがその大切な「おかね」に思いを込めて募金することで、遠く離れた人々にも思いが届くのだと感じる。

僕は昨日、あのコンビニへ行った。

「7円のおつりになります。」

僕の手の中の7円はもちろん、募金箱の中に入れていった。